

# JACET中国・四国支部 Newsletter

## 第 13 号

### 目次

- |   |                      |        |
|---|----------------------|--------|
| 1. 巻頭言  | 支部長 松岡 博信            | pp.1-2 |
| 2. 2014 年第 53 回 JACET 国際大会報告「国際大会を振り返って」      | 国際大会組織委員会支部委員長 岩井 千秋 | pp.2-3 |
| 3. 2014 年度春季支部研究大会報告                          | 池野 修 ・西田 正           | pp.3-4 |
| 4. 2014 年度支部第 2 回役員会報告                        | 事務局幹事 平本 哲嗣          | p. 5   |
| 5. 2014 年度支部研究会 OPP-第 53 回 JACET 国際大会シンポジウム報告 | OPP メンバー 三熊 祥文       | pp.5-6 |
| 6. 2015 年度春季研究大会発表応募要領                        |                      | p.6    |
| 7. 2014 年度『JACET 中国四国支部研究紀要』投稿募集              |                      | p.7    |
| 8. 事務局だより                                     | 事務局幹事 平本 哲嗣          | pp.7-8 |
| 編集後記  |                      | p.9    |
| 【重要】ニューズレター (NL) 配信についてお願い                    |                      | p.10   |

## 1. 巻頭言

### JACET 第 53 回(2014)国際大会を終えて

中国・四国支部長 松岡 博信

中国・四国支部が担当支部となった本年度の国際大会は、8月19日(火)の時点でその9日後に迫っていた。夕刻から未だ経験

したことの無い激しい雷雨が続いており、私ですら一晩中不安であったが、よもや74人の命を奪う土砂災害がその数時間後の

20日(水)のまだ朝も遠い時刻に発生することなど誰が予想できたであろうか。この水害で亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、現在においてもなお災害の爪痕に苦しんでおられる方々が、一日も早く平穏な生活を取り戻されんことを祈念して止まない。

直前の大災害で開催が危ぶまれた今年度の国際大会であったが、平和都市広島での開催に相応しい「平和と友好をめざす英語コミュニケーション能力の育成」というテーマのもとに、8月28日(木)午前に関会し、30日(土)午後成功裏に幕を閉じた。会場校となった広島市立大学の関係者の方々は、困難な状況であったにもかかわらず、本大会の運営に大変協力的であり、おかげで大過無く大会を終えることができた。心より謝意を表したい。また、遠方より多数本大会にご参加くださった中国・四国支部の会員の皆様にもお礼を申し上げたい。

最後に、そして誰よりもであるが、1年ほど前から入念な準備をしてくださり、大会中は七面八臂の活躍を見せてくださった広島市立大学の岩井千秋国際大会組織委員会支部委員長(JACETの旧呼称では大会実行委員長)、そして実行委員であった中国・四国支部役員の方々に心底御礼申し上げます。

以上の方々のおかげで、広島で開催されたにもかかわらず、第53回国際大会は期間中、国内外から総勢820余名の参加者を得ることができ、内容も国際大会に相応しい大変充実したものとなった。この成功は、実行委員会組織メンバーである中国・四国支部役員全員のチームワークの賜物であると言っても過言ではない。支部長として、そして大会委員長として、重ねて関係者全員に心より謝辞を送りたい。

どうもありがとうございました。

(安田女子大学)

## 2. 2014年第53回JACET国際大会報告

### 「国際大会を振り返って」

国際大会組織委員会支部委員長 岩井 千秋

8月30日午後4時、3日間に及んだ国際大会を無事完了。直前の大災害で一時は開催も危ぶまれましたが、7年に一度の支部のお勤めを何とか全うできたことに、嬉しさよりもまずは安堵が先にやってきました。この難題を支部でこなせたのは、支部役員のチームワークの良さであったことを心底から実感しました。些細な問題は目をつぶるとして、自己評価すれば「秀」を出して余りあると自負しています。この「勝利」は我が中国・四国支部の結束の所産、支部役員の皆様には本当にお疲れ様でした。

振り返えれば、準備開始は1年前、大学の公務と学会の準備の板挟みにもがき苦しんだ1年でもありました。私情も入るかと思いますが、少し本音を交えて裏方事情を語ることをお許しください。

事の始まりは支部長松岡先生から昨夏にあった突然の一本の電話でした。100人程度ならばいざ知らず、800人を超える参加者と聞いてまず心配したのは所属先の大学施設ですべてを賄えるかどうかでした。発表会場だけならまだしも、JACET慣例の業者展示の場所の確保、配線、猛暑に耐えうる空調の手配、食堂の

営業打診と懇親会会場としての使用など、施設面の不安は枚挙に遑がなく、会場提供を安請負したことを何度後悔したか分かりません。開催地の最終決定は、確か昨年12月の本部理事会だったと記憶していますが、直前になって辞退することを本気で考えたほどです。

年明けからはついに言い逃れもできない状況に。それでもまだ8か月も先とあれば他人事、これが一変したのが4月になってからです。本部からのメールが激増。それでも最初のうちはまだ一人で何とか対応できていましたが、日を追うごとにオーバーフローとなり、ついに降参。支部事務局で副委員長をお願いした平本先生を始め、松岡先生、三宅先生、高橋先生への相談やお願いの回数が日ごとに増えていきました。本部からは、バッグの注文、後援名義の取得、看板の手配、発表教室の割り当て、招待者等のホテル予約など矢継ぎ早の注文、その辺りからは支部役員会で決めた役割分担に沿って、各担当の先生方をお願いすることが私の仕事になりました。

学会準備でどうしても採り入れたかったのが学会ホスト役として参加者をもてなし、学会を楽しんでもらうことでした。海外の国際学会でよく感じるのは、学会が「楽会」(これは LET 会長の関西支部、

竹内理先生の造語)でもあることです。そこに地方文化をどう盛り込むか。その答えが学会テーマに添えられた **peace and friendship** であり、余興で採り入れた神楽(島根県立大生)やアカペラサークル(広島市立大生)による歌の披露でした。そのヒントは昨年の京都大学での大会にあったことを白状しなければなりません、もっともわくわくしながら準備したのがこの三つでした。その成果は敢えて自己評価はせず、参加者の皆さんの評価に委ねたく思います。

最後に、本学会開催にあたっては、多くの皆様にお世話になりました。会長の神保先生、本部の寺内先生、馬場先生、それに事務局の荒川さん、保坂さん、支部長の松岡先生、支部役員の方全員、同僚の横山先生と渡辺先生、臨時職員としてサポートしてくれた広島市立大生諸君、神楽や歌を披露してくれた学生さんたちなど、挙げればきりがありません。すべての皆様に心からお礼申し上げます。大変な学会の開催を背負ってしまいましたが、その分得るものも大きく、この活動を通じて得られた人の繋がりが私にとっては何にも替え難い財産として残りました。

(広島市立大学)

### 3. 2014 年度春季支部研究大会報告

池野 修(第1室)

2014 年度春季支部研究大会は、6月7日(土)に広島市立大学を会場にして行われた。この大会は、毎年度行う支部研究大会という位置づけに加えて、9月に同大学で行われる JACET 国際大会の予行演習という意味合いをも持たせた研究大会であった。今年度の支部研究大会では、例年を上回る10件の研究発表が2室に分かれて行われた。

第1室での発表は次の通りである--- (1)「協同学習を取り入れた内容理解重視の授業—そのリメディアル教育としての可能性」(岩中貴裕, 以下敬称省略), (2)「ティーチング・ポートフォリオの作成を通して英語教育活動を振り返る」(中山晃), (3)“Introducing a new scale: Student Preferences for Instructional Language”(SPIL) (Eleanor Carson), (4)

「小グループ内で実施するピア・アセスメント—その利点と問題点—」(奥田利栄子), (5)「スイスにおける外国語教育政策—多言語教育, CLIL, 外国語教員養成の視点より—」(二五義博)。

発表内容は、リメディアル教育, CLIL, ティーチング・ポートフォリオ, 英語での授業, ピア・アセスメントなどのキーワードに見られるように、多くの大学英語教育関係者が学術的・実践的関心を共有しているものであり、先進的な大学英語教育実践の報告、教師教育事例の提案、教育国際比較など、研究タイプ&アプローチも多岐に渡っている。充実した内容の研究結果が報告されるとともに、限られた時間ではあったが、活発な質疑応答が行われた。

大学英語教育学会中国・四国支部の研究大会に参加すると、参加人数こそ必ずしも

多い訳ではないが、強い連帯感と発表者&参加者をリスペクトし合う雰囲気は漂っているように感じる。これは、支部長である松岡博信先生(安田女子大学)をはじめとする支部役員の先生方が何年間にも渡って作ってこられた学会風土でもありと考えられ、これ以後も大切にしていきたい。

最後に、支部研究大会の参加者を代表して、大会プログラムの取りまとめを行っていただいた平本哲嗣先生(安田女子大学)、大会運営を担われた岩井千秋先生(広島市立大学)に特に感謝の気持ちをお伝えしたい。来年度の支部研究大会は2015年6月初旬に広島工業大学で開催される予定である。

(愛媛大学)

## 西田 正(第2室)

研究発表第二室では、以下の5件の発表があり、その概要は次の通りである。

藤居真路(広島県立尾道商業高校)「英語学習における嫌悪感と価値、困難度、防衛的反応の関係」、英語学習における提出物の遅延、理由を付けて学習を避けるセルフ・ハンディキャッピングなどの防衛反応が、英語学習の困難度、自己効力感、有能感、自尊心とどのような関係にあるのかを探り、学習者にとって英語学習が価値ある学習であることに気付かせる取り組みが必要である。

西谷工平・小田希望(就実大)「L1 多義指導はL2 誤出力予防につながるか? 多義指導の有効性についての予備調査」、学生による助動詞 can (could)の誤出力を5つのパターンに分け、日本語の「できる(できた)の多様性を認識すれば can (could)の誤出力が抑制できるかを検証した。多義性を指導したグループと多義性を指導しなかったグループでは誤出力のパターンに相違がみられた。

田中博晃(広島国際大学)「英語が苦手な学習者の内発的動機づけと学習への取り組みを高める授業の効果:実践研究による

予備的検討」自己決定理論の有能性と関連性の欲求を満たす授業を行い、英語習熟度の低い学習者からデータを集めた結果、自律性の欲求を含む3欲求、特性レベルと授業レベルの内発的動機づけ、授業への取り組みの向上が見られた。

藤村美希(安田女子大学大学院)「リスニングにおける文法性判断力」英語学力上位群と下位群にそれぞれリスニングとリーディングによる文法性判断力テストを実施して、群間に、またリスニングとリーディングでテスト結果に差が出るのかを検証した。結果として文法性判断力の差はなく、文法項目別の正答率を比較した。今後の課題として、学習者の意識調査、非文の判断と潜在的知識の関連性の検討などがある。

松岡博信(安田女子大学)「Moodles 小テスト機能の活用について」勤務校における Moodle 実践の10年に及ぶ開発研究に基づき、多肢選択問題の作成(テスト様式の全体設定と個々の問題作成)、ディクテーション問題の作成、cloze (穴埋め問題)の活用、などの実例を示し、Moodle の利便性を検討した。このような活用は、英語学

習の動機付けを高め、紙ベースでは困難な  
復習テストの実施を可能にして、課外学習

の促進にも有効である。

(福山大学)

## 4. 2014年度 JACET 中国・四国支部

### 第2回役員会報告

事務局幹事 平本 哲嗣

2014年8月27日(水)に開催された第2  
回支部役員会にて、2015年度の事業計画に  
ついて話し合いが行われました。暫定的で  
はありますが、お知らせいたします。

#### 1) 来年度の事業計画について

・春季研究大会

日程：2015年6月6日(土)

場所：広島工業大学

大会テーマ：未定

(同日に支部総会を実施の予定)

・秋季研究大会

日程：2015年10月24日(土)(予定)

場所：松山大学

大会テーマ：未定

#### 2) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：2015年12月(予定)

場所：未定

#### 3) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』  
(第13号)

発行：2016年3月31日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2015年7月30日(第15号)、2016  
年1月20日(第16号)(予定)

## 5. 2014年度支部研究会 OPP

### 第53回 JACET 国際大会シンポジウム報告

OPP メンバー 三熊祥文

地元開催ということもあり、中国四国  
支部の主要イベントの1つである

OPP(Oral Presentation & Performance)  
の活動と成果を共有すべく、OPP 研究会  
8月29日(金)午前9時より「Competence  
から Performance へ—中国・四国支部研  
究会 Oral Presentation & Performance  
(OPP)による5年間の活動実績に基づいた  
教育的示唆—」と題してシンポジウム  
を開催しました。朝一番ということで聴  
衆が集まるかどうか心配されましたが、

多くの参加を得、盛況を博すことができ  
ました。

OPP のミッションを協働学習の実践  
(collaborative learning)と紹介し、概要を  
説明した岩井先生に引き続き、三宅先生が  
「コミュニケーションが苦手な学生に英語  
を介して集いの場の提供するところから始  
まった自主的、積極的なサークルへ成長」  
を報告し、吉本先生が「授業で取り組むド  
ラマによる OPP への参加」によって学校と  
学外の連携の可能性を示し、私、三熊が「チ

チャンツという教授テクニックの1つが実はパフォーマンスとして昇華可能である」ことを披露し、最後に平本先生が「アフレコというユニークなパフォーマンスとそれを補助する機器の紹介」で最後を締めるという形でシンポジストの発表がなされました。

今回のシンポジウムを特徴付けた事の1つに、学生のデモンストレーションがありました。三宅先生の指導された古典落語の演目の一つ「まんじゅうこわい」の英語版と、私の指導した「オリジナルチャンツ&チャンツによるスピーチ」の実演のために両グループあわせて20人近い学生が参加してくれたことは、この取り組みの「学生中心・主導」の性質をより強く表現する事になったと思われれます。落語については、海外からの学会参加者から今後につながるリアクションがあったということですし、

また「チャンツによるスピーチ」は12月の今年度OPPの予告編として、期待を持たせるものになったと思われれます。

質疑応答では、通常、吟味検討のため批判眼を前面に押し出して話を聞くことが多いと思われる学会ですが、そんな中、大変に期待を寄せていただいたと実感するセッションとなりました。それだけにより使命感を新たにす次第であります。学生が表現者として主役となる場を作り出すことは、教員にとって今最も求められること、旬なテーマだったということだと思います。このパフォーマンスの輪が少しずつ広がって、英語学習という取り組みが、学習者の生涯の糧となるような方向づくりに寄与できれば、我々の活動も大いに意味があるのではないのでしょうか。

(広島工業大学)

## 6. 2015年度春季研究大会発表募集要領

8月27日(水)に開催された第2回支部役員会にて、2015年度春季研究大会について話し合いが行われましたので、お知らせいたします。

支部研究大会

日時：2015年6月6日(土)

場所：広島工業大学

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語

b. 種別 (Style) : 自由研究発表、実践報告、事例研究など

c. 氏名 (Name) :

d. 研究領域 (Research Area) :

e. 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は600字以内、英語の場合は250 words以内とする。

f. 所属 (Affiliation) :

g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2015年4月26日(金)~5月26日(日)  
午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください(発表、および懇親会への参加申込ができます)。

<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員ML、および支部HPでお知らせします。(支部会員MLへのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 平本哲嗣  
hiramoto@yasuda-u.ac.jp

## 7. 2014年度『JACET中国・四国支部研究紀要』投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に関催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定

いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り：10月末
- 審査結果通知：12月末
- 修正原稿締め切り：1月末
- 刊行：3月末

送付先：紀要編集委員会委員長  
松岡博信(安田女子大学)

E-mail: matsuoka@yasuda-u.ac.jp

## 8. ～事務局だより～

今年の夏は広島市立大学を会場とし、第53回国際大会が開催され、中国・四国支部にとっては特別なものとなりました。実に多くの方々のご協力を得て、無事大会を終了することができ、支部役員一同ほっとしているところです。平和都市広島を舞台とする今回の大会を通じて、「英語教育を通じての世界平和」に少しでも近づくことができたのであれば、関係者一同、これ以上の喜びはありません。

なお、この度の国際大会を受けて、本支部の秋季支部研究大会は開催いたしません。しかし支部紀要の論文は受け付けておりますので、詳細については支部HPをご覧ください。今年も会員の皆様からの寄稿をお待ちいたしております。

また、本学会の一般社団法人化を受けて、今秋には社員選挙が実施されます。本支部

からは5名の社員を選出することになります。この5名の方々は全国の支部から選出された社員からなる社員総会に出席し、学会の運営方針について議論することになります。会員の皆様の中から社員となる方が出ることになります。詳細については追ってご連絡いたしますので、ご協力どうぞよろしく願いいたします。

最後になりますが、この8月に広島市で発生した土砂災害を受け、国際大会において募金箱を置きました。多くの方々から善意のお志をいただき、学会役員一同心よりお礼を申し上げます。被災地の復旧にはまだ時間がかかりそうですが、これからも本支部は学会組織として、そして英語教員として被災された方々を支えていく所存です。JACETは大学英語教育の学会ですが、単に英語を教える以上の社会的役割が本学会には期待されていると思います。英

語教育を通して、人々の暮らしがより豊かになるよう今後も努力を続けてまいります。

★新入会員紹介★

2014 年度の新入会員をご紹介します。  
(2014 年 4 月から 2014 年 9 月まで)

Stafford, Mark

藤本麻記

道本祐子

Heffernan, Neil

平瀬洋子

Doyle, Howard

Swier, Robert

ウォーナー, イアン・ウィリアム

金沢真弓

井口智彰

佐藤龍一

Arnold, David

MacAnthony, Diarmuid Joseph

山中英理子

Lauer, Joseph (敬称略)

どうぞよろしく願いいたします。

★2014 年度支部人事★

2014 年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、どうぞよろしく願いいたします。

【支部役員】

支部長 松岡博信 (安田女子大学)

副支部長 岩井千秋 (広島市立大学)

支部幹事 (\*は事務局幹事)

\*平本哲嗣 (安田女子大学)

高橋俊章 (山口大学)

三宅美鈴 (広島国際大学)

支部会計担当者

山川健一 (安田女子大学)

支部研究企画委員

筏津成一 (元鳥取大学)

池野 修 (愛媛大学)

岩中貴裕 (香川大学)

上西幸治 (広島大学)

角山照彦 (広島国際大学)

小山尚史 (岡山大学)

高垣俊之 (尾道市立大学)

高橋俊章 (山口大学)

瀧由紀子 (松山大学)

田中博晃 (広島国際大学)

田辺尚子 (安田女子大学)

田淵博文 (就実大学)

寺嶋健史 (松山大学)

鳥越秀知 (香川高等専門学校)

西田 正 (福山大学)

平本哲嗣 (安田女子大学)

堀部秀雄 (広島工業大学)

三熊祥文 (広島工業大学)

三宅美鈴 (広島国際大学)

山川健一 (安田女子大学)

ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 松岡博信 (安田女子大学)

総務委員会 (支部事務局幹事)

平本哲嗣 (安田女子大学)

財務委員会 (支部会計担当者)

山川健一 (安田女子大学)

国際大会組織委員会本部

田中博晃 (広島国際大学)

『JACET 通信』委員会

鳥越秀知 (香川高専)

学術出版委員会紀要担当

松岡博信 (安田女子大学)

学術出版委員会

堀部秀雄 (安田女子大学)

セミナー事業委員会 サマーセミナー担当

田淵博文 (就実大学)

研究促進委員会

岩井千秋 (広島市立大学)

国際交流委員

堀部秀雄 (広島工業大学)

大学英語教育学会賞運営委員会

筏津成一 (元鳥取大学)

国際大会組織委員会 支部

岩井千秋 (広島市立大学)



★支部紀要・ニューズレター発行予定★  
『支部紀要』第13号  
2015年3月31日刊行(予定)

『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』  
2015年1月31日(第14号)発行(予定)

### 【編集後記】

夏らしさをあまり感じることなくさわやかな秋風を朝晩に感じるようになった今日この頃です。皆様如何お過ごしでしょうか。

今年度は広島で未曾有の大雨による災害が発生し、多くの方が被害に遭いました。未だに不便な生活を余儀なくされている方も多いと耳にいたします。一日も早い復興を祈るばかりです。

今年度の国際大会がその広島で開催され、大会に出席された多くの方々からの義援金による支援を頂戴いたしました。この場をお借りし深くお礼申し上げます。

さて、秋分の日も過ぎ、夜の時間が長くなってまいりました。秋の夜長をどのように過ごされますか。ここで偏見に満ちたサイトが一押ししている本をご紹介します。騙されたと思って、ワイン?いえ焼酎のロックを片手にゆったりとした時間をちょっとだけ大人気分で(年だけは充分大人ですが・・・)楽しんでみるのはいかがでしょうか。

紀伊国屋書店：

『ふくわらい』西加奈子(朝日新聞出版)

【あらすじ】マルキ・ド・サドを文字って名付けられた、書籍編集者の鳴木戸定。彼女は幼い頃、紀行作家の父に連れられていった旅先で誰もが目を覆うような特異な体験をした。その時から、定は世間と自分を隔てる壁を強く意識するようになる。日常を機械的に贈る定だったが、ある日、心の奥底にしまいこんでいた、自分でも忘れていたはずの思いに気づいてしまう。その瞬間、彼女の心の壁は崩れ去り、熱い思いがとめどなく溢れ出すのだった。



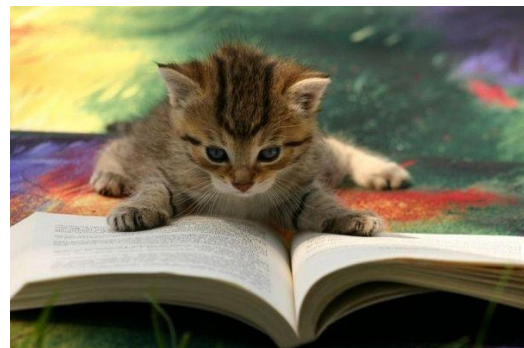
書店員おすすめ本：

『明日の子供たち』有川浩 (幻冬舎)

【コメント】想いがつらなり響く時、昨日と違う明日が待っている！児童養護施設を舞台に繰り広げられるドラマティック長篇。諦める前に、踏み出せ。思い込みの壁を打ち砕け！児童養護施設に転職した元営業マンの三田村慎平はやる気は人一倍ある新任職員。愛想はないが涙もろい三年目の和泉和恵や、理論派の熱血ベテラン猪股吉行、“問題のない子供”谷村奏子、大人より大人びている17歳の平田久志に囲まれて繰り広げられるドラマティック長篇。

そして、MMおすすめ：

『ネコあるあるフォト』ナガタクミコ/編  
ただ、かわいいネコの写真集。



(MM)

**【重要】**

JACET(大学英語教育学会)中国・四国支部ニューズレターの配信について

中国・四国支部 支部長  
松岡 博信(安田女子大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ( <http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/> )に入る。
3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。

- ・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？  
すでに登録している    希望する    希望しない  
(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

- ・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がございましたら、事務局幹事の平本(hiramoto@yasuda-u.ac.jp)までお問い合わせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第13号 2014年9月30日 発行 発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 松岡 博信) 編集 : JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴 発行所 : 〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部医療技術学科 三宅 美鈴 連絡先 : Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp
--